会議議事録

|  |  |
| --- | --- |
| 事業名 | 令和４年度職業実践専門課程等を通じた専修学校の質保証・向上の推進事業  （２）教職員の資質能力向上の推進①効果的な教育成果の公開方法等に関する支援体制づくりの推進 |
| 代表校 | 一般社団法人全国専門学校教育研究会 |

|  |  |
| --- | --- |
| 会議名 | 第1回職業実践専門課程普及協議会 |
| 開催日時 | 令和4年10月17日（月）13;00～14:00 |
| 場所 | リファレンス駅東ビル |
| 出席者 | 事業責任者：高岡信吾  委　　　員：岡村慎一、成底敏、上里政光、新井公一（OL）、  五十部昌克（OL）、斎藤昭雄（OL）　　　　計7名  請負業者　：飯塚　正成　　　　　　　　　　　　　　　計1名  　　　　　　　　　　　 　　　　　　　　　　　　　　合計8名 |
| 議題等 | 1. 委員自己紹介   ２.各プロジェクト進捗共有  (1)体制整備事業（成底）  ・コンテンツ開発は、知識系分野学習用動画コンテンツの追加として、①情報公開の必要性検討として日本電子の事例紹介的な内容を検討中。②職業教育のマネジメントの有用性として三菱総研に相談し、これまで文科省と進めてきた事業の内容共有を検討中。③私立学校法改正について文科省私学行政課長と調整をしている。今年度の法案提出が厳しい状況であり、具体的な改正内容ではなく、改正に至る理由等や社会からの要請について話してもらう可能性が出てきた。現状はこれら3本のコンテンツ作成を予定している  ・情報公開セミナーは、魅力ある情報公開を通じた広報・募集活動を具体的に計画・推進できる人材の養成を目指すことをテーマとして2会場で実施を予定している。日程は、令和4年11月28日（月）13：00～17：00東京。令和5年1月23日（月）13：00～17：00福岡を予定している。内容は①「情報公開の現状と今後の展望（仮題）」　　　　　　②「カリキュラムブック作成への取り組み（仮題）」「学校情報の周知への取り組み（仮題）」「学校特性や地域特性における学生の成長変化について（仮題）」をテーマとして依頼をしている。  ・職業教育マネジメントセミナーは、職業教育マネジメント事例の紹介やグループワークを通じ、専門学校の学校運営体制の強化を目指すことを目的として開催を予定する。日程は令和4年11月29日（火）9：00～12：00東京。令和5年1月24日（火）9：00～12：00福岡の2会場。内容としては、「職業教育のマネジメントにおける情報収集・活用の重要性」「職業教育マネジメントの取り組み事例」「職業教育マネジメント構築へ至るプロセスと課題」「私立学校法改正について」ということで、三菱総研、学校法人小山学園白井校長、全専各連菊田参与にお声がけしているところである。  ・e-learningマネジメントシステムの構築は、本事業が開発する専門スタッフに必要な知識系動画コンテンツを広く普及することにより、スタッフの知識強化を図るための体制を整備する事を目的としている。学習コンテンツは、令和3年度に開発した10本の動画コンテンツおよび令和4年度に開発を予定する3本の動画コンテンツを加えた13本の動画コンテンツのインターネット配信と受講者管理を行うためのシステムを開発する。学習コンテンツの開発状況により徐々に公開していきたい。  ・申請業務効率化アプリ開発は、各種申請書類作成における「ムリ、ムダ、ムラ」を洗い出し、これを省くためのアプリケーションを開発し、各校の専門スタッフが短時間かつ一定の質を担保した効率的な業務遂行ができるよう支援することを目的としている。具体的には、職業実践課程申請、修学支援新制度、学則変更等の申請書類作成を　　　　対象として、業務の排除、結合、交換、簡略化を行うためのアプリケーションを開発する予定です。  (2)教員研修プログラム開発事業（上里）  ・教員研修プログラム開発事業は、昨年度から引き続き2つのプログラムを開発します。１つ目は学習評価研修プログラム。2つ目はICT活用研修プログラムです。  ・学習評価研修プログラム開発は、４章立ての構成になっています。そのうち１章と２章は令和3年度に作成を終えています。この研修は対面研修として設計されており、昨年度はコロナの関係で開発はできていたものの検証することができませんでした。現状は、8月9月で3校にて検証を行い。すでに改善部分の特定や研修内容の改善を行いました。現在は、３章、４章部分の開発に着手し12月ぐらいから検証研修を3校程度で実施する予定です。また、本プロジェクトには参画していない富山情報ビジネス専門学校から１章・２章部分の研修を実施してほしいと要望があり、10月26日に70人程度の教職員を対象とした研修を実施する予定としています。  ・ICT活用研修プログラミング開発は、昨年度までに作成した事前学習用ビデオ及び当日学習するための教材、事後学習として効果測定シートを開発しています。開発にあたってはオンラインによる調査を2回、今後も適宜実施する予定としています。現状では岡山及び熊谷での実証を済ませ、現在改善点などを模索しているところです。今後は、対面で2回、オンラインで1回の検証を予定しています。  （3）共通基盤整備事業（五十部）  ・前年度に開発を完了した自己点検・評価【共通的評価基準モデル2022】に関しては、本年のこれを普及するためのセミナーを開催しています。現在オンライン1回、対面2回の研修を終了し、参加者は130名を超えています。また、このセミナーに関しては、再度行ってほしいという要望も多いため年末ぐらいを目途に数回追加研修を実施することを検討しています。  ・第三者評価認証簡略化モデル及び組織運営ガイドラインの開発と検証に関しては、今回実施した自己点検・評価のセミナー参加者に受審の要望を募り、実施していくことを検討しています。審査者側は、JAMOTECおよび私立専門学校等評価研究機構にご協力いただき実施してまいります。  ・内部質保証人材育成プログラムの開発と検証は、現在キャリア教育財団が実施しているモデルを参考に、私どもの特徴を生かしたプログラム開発を次回の委員会にて検討することとしています。  （4）質疑応答  ・体制整備事業で開発している申請書効率化アプリについて、期待しています。早めに開発できることを望んでいます。（斉藤）  ・投稿のICT活用研修プログラム開発事業に職員が参加しており、大変活発な議論が行われていると聞いています。（新井） |
| 配布資料 |  |

以上